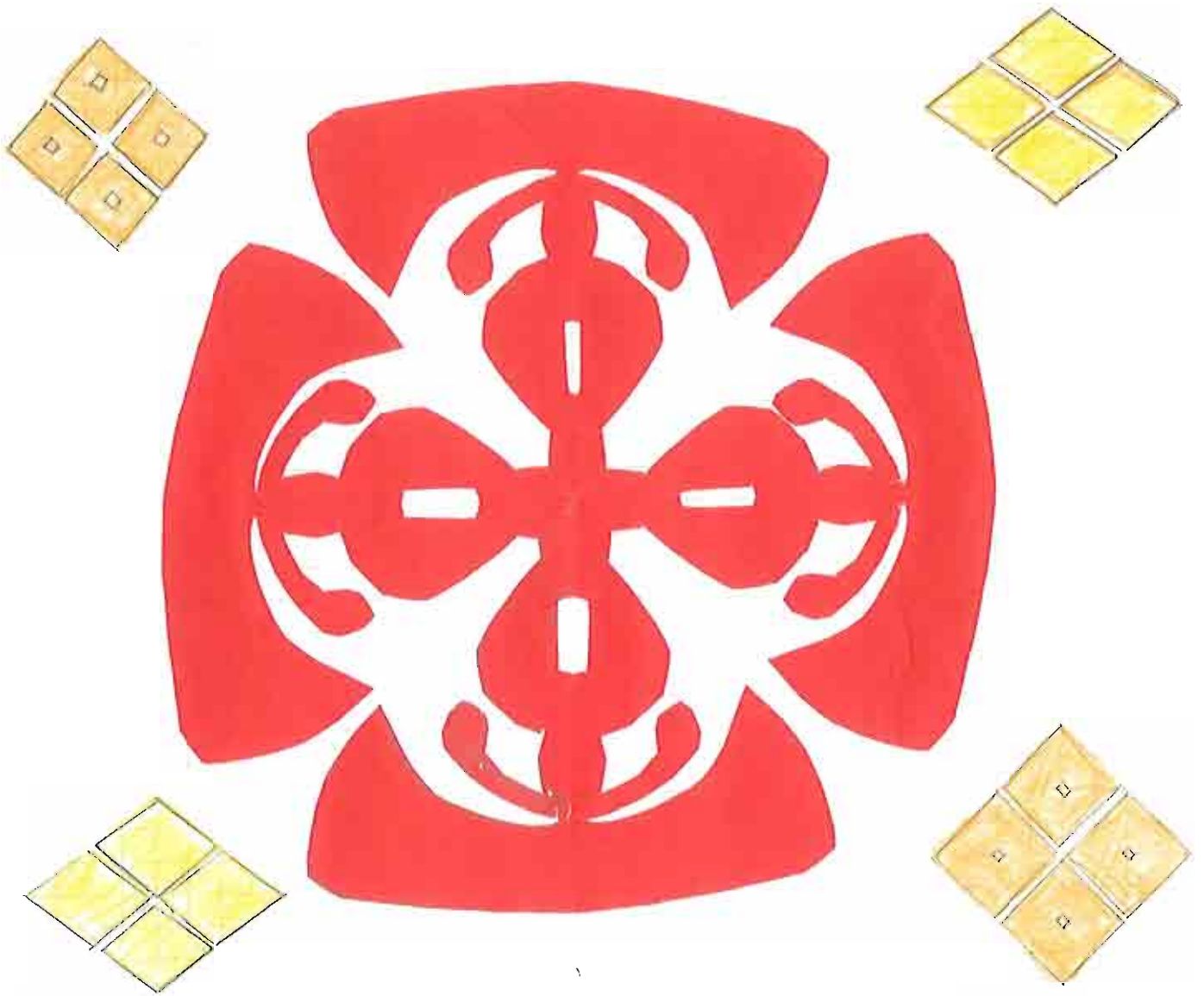


☉家紋の歴史は
日本の歴史☉



☉～家紋がうつす日本人の心～☉

🌸長崎小学校 3-1 🌸

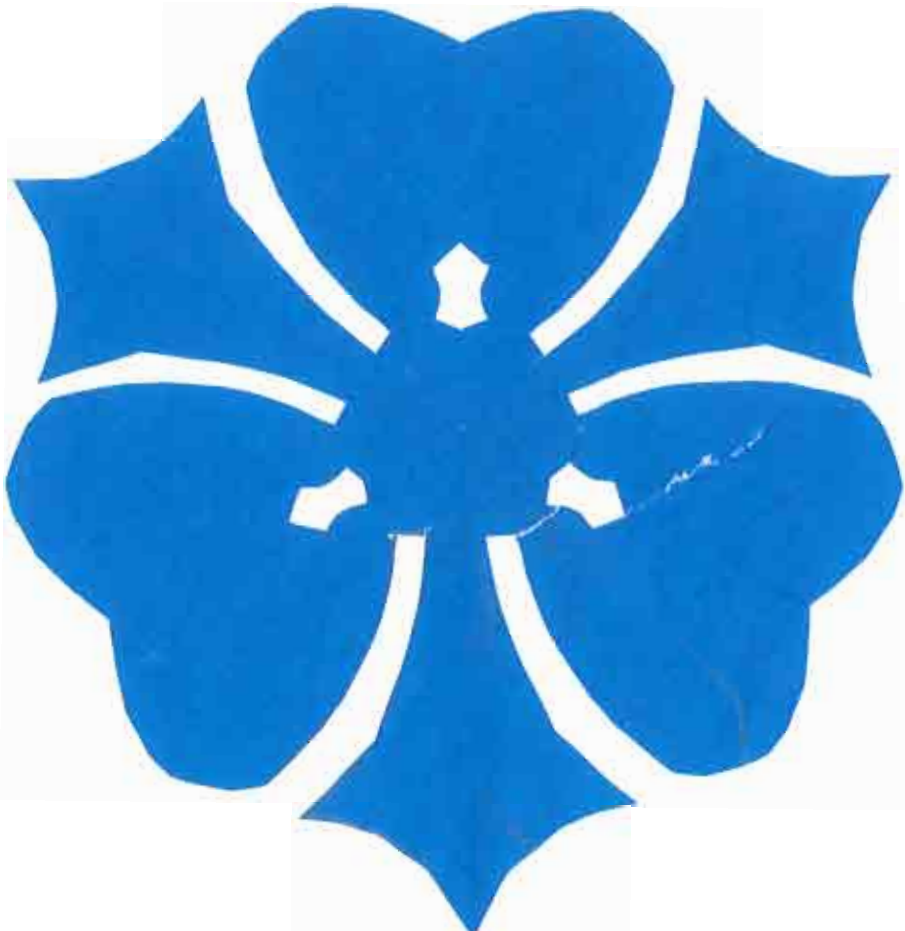
🍇武井 智咲 🍇

目次

はじめに	P1
き問と予想	P2、P3
①家紋、そもそも何?	P4
②家紋はいつからあるの?	P5~P8
③家紋はどれくらいの数があるの?	P9、P10
④昔家紋はどうやって決めていたの?	P11~P28
調べよう。わたしがえらんだ武将の定紋	P15~P18
調べよう。着物でたどる女紋。	P17
調べよう。はか石の家紋	P20~P25
⑤家紋はどんな地位の人が持っていたの?	P29~P40
⑥家紋は何の役わりがあるの?	P41~P47
⑦昔も今も家紋を決める時、 たれかのきょ可がとつたの?	P48~P50
行ってきました。最上よし光歴史館	P51~P58
おわりに	P59
さん考しなう	P60

①はじめに

わたしは2年生のころから歴史がすきで、よく歴史の本を読んでいます。ある時、わたしは本のページの数に、マークのようないろんなものが書いてあることに気がつきました。後で調べてみると、それは「家紋」という物でした。また、山形にある母の実家のおはかまいりに行くと、おはかの石にも家紋がきざまれていることに気がつきました。その後、「家紋、て何だろう？」や「家紋、て何のためにあるの？」など、たくさんの方の質問が頭の中にかんてきたので、調べることにしました。



① ぎ問と予想

②

① そもそも家紋って何？

予想 マークににっていたので人や家を表すシンボルマークだと思う。

② 家紋はいつからあるの？

予想 戦いがある時代からあったと思うから江戸時代よりもずっとむかしだと思う。

③ 家紋はどれぐらいの数があるの？

予想 1000はこえていると思う。自分と相手とをくべつするにはたくさん家紋がひつようになると思うから。

④ むかし、家紋はどのように決めていたの？

予想 決める人のすきな物、その土地の名物や、いくつかこうほがあ。てその中からえらぶ、などして決めていたと思う。

⑤ 家紋はどんな地位の人が持っていたの？

予想 身分が高い人は持てたが身分のひくい人は持てなかつたと思う。分けは身分がひくい人も家紋をもつと家紋がたくさんひつようにな。て家紋を考えるのが大へんになるから。

⑥家紋。て何のやくわりがあるの？③

予想 それぞれの人が一目で分かるように
だと思ふ。

⑦むかしも今も家紋を決める時だれか
のきよ可がひつようなの？

予想 ひつようはないと思ふ。むかしはその
人が決めて今は「家紋デザイナー」
のような人に家紋をデザインしてくれる
よつたのむのだと思ふ。

①家紋。てそもそも何？④

(1)家紋とは

家紋とは、もともと「紋どころ」
あるいは「家の紋章」などとよばれ、
それぞれの家の*独自性をあらわす、
しるしとして用いられた*図がらのこと
である。

(「面白いほどよくわかる家紋のすべて」
より)

(2)予想とのひかく

わたしは家紋は人や家を表すシンボル
(しょうちょう)マークと予想したので
ほぼ合っていた。

*独自…①自分ひとり

②そのものだけがもっているもの

*図がら…絵や図あんのもよう

(「小学館国語じてん」より)

②家紋はいつからあるの? 5

(1)家紋のはじまりは縄文時代?

家紋は自ぜんに生まれた物で、家紋が
できあがった時きをとくに決めること
はできない。

ただ、家紋のデザインは文様からへん化
したものが多^い。

文様は、縄文時代の土器の縄目文様なわめ
そして、弥生時代の流水文様やうずまき
文様などにすでに見られる。

(2)公家の家紋

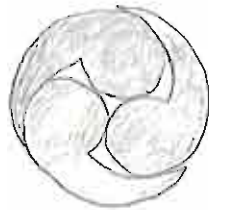
家紋は、平安時代の^{*}貴族たちが自分の
牛車にしるしをつけたことから生まれた。
平安時代の^{*}公家は、牛車でい動
しており、時には多くの牛車が集まる
ことがあった。そんな時に牛車の持ち主
を明らかにするために牛車に自分だけの
しるしをつけたのである。

^{*}貴族…身分の高い家からやその人々。

^{*}公家…むかし天皇に仕えていた身分の
高い人々

(「小学館国語じてん」より)

そのしるしは、牛車のかざりでもあり
 *個性の表れにもなっていた。そして
 そのしるしが代々受けつがれるようになり
 その家を表す紋として定着したとされて
 いる。



(3) さいしよの公家紋

ふじわらのさねすえ 藤原実季 (1035~1092) が とびがた 巴形を3つ
 組み合わせたしるしを牛車につけたのが
 さいしよの くま 單紋 (牛車につけた紋) と言わ
 れている。この三つ巴のしるしは、その後
 子孫に受けつがれ、実季の子孫である
さいしよ 西園寺家の家紋は左三つ巴紋となっている。

(4) 公家が好んだのは美しいデザイン

平安時代は、まだかざりとしての意味合い
 が強く、公家の家紋は美しく上品なデザ
 インが好まれた。家紋がはじめて用いら
 れるようになつたころは、現在見られら
 ような、左右たいしようで丸や四角で
 こまれた あ 図あんではなく、左右ひたい
 しようで植物などをありのままに表した
 デザインが中心だった。

*個性... その物や人がもっているくべつの個性
 (「小学館国語じてん」より)

(5) * 武家の家紋

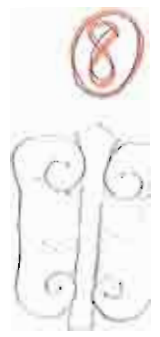
牛車にのることもない武士の間にも家紋が広まったのは、平安時代末におこった源平合戦がきっかけと考

られている。当時、合戦場では、武士たちが勝利をいのたりにする目的のために、平氏は赤はた源氏は白はたを用いていた。源平合戦に源氏が勝利すると、源氏の白はたばかりになり、武士のちう点に立った源頼朝は、やがて白はたを自分だけの頼朝はたと考えるようになった。つまり、頼朝は自分たち源氏と格下の武士が同じはたを用いることをよく思わず、武士たちにはたに家紋をつけることを命じた。

また、はたに家紋をつけることで戦功をあげた者がだれか一目で分かるようになった。

多くの武士は家紋をむっでいなかっただため、頼朝がその家紋を一目で分かるようにするしるしをあてていった。それが頼朝が「家紋の生みの親」と言われるゆえんであり、こうして、武士の間で自分と相手を区別するしるしとして家紋が広まっていた。

*武家…さむらい。武士の家
(「小学館国語じてん」より)



(6) さいしょの武家紋

平氏が赤はた、源氏が白はたと、また
色だけをしろしとしていたところ、
地方むさしの国の武士一族である
党は、うちわ文様のしろしをはたに
つけて戦っていたという。おそらく
これが最古の武家紋ではないかと
言われている。

(7) 武士が好んだのは分かりやすいデザイン

源平合戦で用いられた家紋は合戦場で
遠くから見ても、武士がだれか区べつ
しやすいように分かりやすくシンプル
な図が好まれた。

(8) 予想とのひかく

わたしは、家紋は江戸時代よりもずっと
むかしからあると予想したので、当た
っていた。

(「イチから知りたい家紋と名字」より)

(「面白いほどよく分かる家紋と名字」より)

(「よく分かる家紋と名字」より)

③家紋はどれぐらいの数があるの？

(1)家紋の数

文様から家紋に用いられるようになった平安時には400～500もあったといわれる。現在の家紋の数は、2万とも3万ともいわれているが、現代でも新しい家紋は作られており、その数はだれにも分からない。

(2)家紋がふえた理由

- だれでも自由に用いることができる。
- とくべつなとうろくはひつようない。
- 分家を出すとときや一族の子孫がふえた時にデザインを少しずつかえてあたえたためさまざまなバリエーションが生まれた。
- 自分の家紋が分からない人は自分で作った。
- 家紋には定紋じょうもん(正式な家紋)と替紋かきもん(定紋以外の家紋)があり、戦国時代の武家などは、2しゅうるいいい上もの家紋を使い分けていた。

- け、こんした後、女性が自分の実家の家紋を使いつづけるためにふうふがべつべつの家紋を用いることもあり家紋は一家に1つどはなかつた。
- 女性が使う家紋は女紋とよばれ、男性が使う家紋よりも少しサイズを小さくしたり、女性的なデザインにかえたりした。

(「よく分かる! 名字と家紋と名字より」)
 (「伊から知りたい! 家紋と名字より」)
 (「日本の家紋大事件」より)

(3) 予想とのひかく

わたしの予想とは合っていた。
 しかしわたしは1000をこえるくらいと予想したけど、現在では、家紋はふえつづけていてせいかくな数はだれにも分からないということを知って、わたしは、家紋の数をだれかが記ろくしていると思、たので、だれも家紋の数を記ろくしていないことにもび、くりした。

⑩むかし、家紋はどうやって
決めていたの？

(1) 日本人の四季をかんじろ心と家紋

日本人は古くから四季を楽しみ^{*}花鳥
風月を大切に親しんできた。

そのような日本人には、自ぜんの中に
ある、花、植物、動物、太陽、月、星
道具などを自由に図あん化して、美しい
家紋を作りあげることができた
と考えられる。

そのような家紋には、しだいに一族の
しあわせ、はんえい、けんこうなどの
意味がこめられるようになった。

(「イラスト図かい・家紋」より)

^か^ち^づ^う^げ^つ
*花鳥風月…しぜんの美しい風けい

(「小学館国語じてん」より)

(2) 家紋の分りい

- 使用用^{よう}とによる分りい (使い道による分りい)

じょうもん 定紋	公式に用いられる家紋。表紋。本紋。正紋。
かえもん 替紋	定紋以外の紋。ひ公式な家紋。 うら紋。副紋。べつ紋。
おんなもん 女紋	女性のみが使う紋。母から娘。娘から孫へとうけつがれる母ゆずりの紋。 「つた」など
つうもん 通紋 とおつもん	だれでも使うことがでできる紋。 もらくや夏いしょうに見られる。 「五三桐」、「つた」、「あげはちよう」など。
どくせんもん 独占紋	とくていの家や個人が使用する紋。 紋名に「家」がらくまれる紋。

(「日本の家紋大事せん」より)

(「イラスト図がい・家紋」より)

• 自ぜん科学的分るい (モチーフによる分るい)
(日本の家紋大事せんより)

<p>自ぜん紋 (天文紋・地紋)</p>	<p>日月、星雲、かみ、雪山、水、なみなどを表現した紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • いなづま • 日足
<p>植物紋</p>	<p>花、草木を図あん化した紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • うめ • さく
<p>動物紋</p>	<p>動物、鳥、虫、水生動物、伝説上の生き物を図あん化した紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • たかの^は羽 • ちょう
<p>器材紋</p>	<p>日常生活で用いられた道具類、器具、かん具、漁具、馬器、楽器、通が、仏具、武器などが用いられた紋。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • うちわ • くるす
<p>建ぞう物紋</p>	<p>寺社や家屋などの建物や土木工事の道具を図あん化した紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • いづつ • とりい
<p>文様紋</p>	<p>古くから着物などに用いられた文様を紋章としたもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> • うろこ • ひし
<p>文字紋</p>	<p>文字を用いた紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • たいらだひんたいき • 大文字(世) • 万字(世)
<p>図心紋</p>	<p>信こうや^{うな}占いなどを目的とする紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 源氏香(けいじこう) • あべの晴明(あべの)

使用^{*}意ぎによる分るいく意味をもたせたもの
 *意ぎ... ①ことはのもっているわけ
 ②物事がもっているわけやねうち
 (日本の家紋入事てん「イチから知りたい」家紋と名字より)

<p>(^{しよ}羨的意ぎ) 文様紋</p>	<p>形じょうがやさしく美しい ためにとくに公家好み 見ためがみやびやかな家紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 下がり藤 • ささりんどう • あげはちょう • もっこう
<p>(^{ずい}ずい的意ぎ) ずいじょう紋</p>	<p>長じゅはんえい、出世 などのえんぎの良いい めてたい意味をもた せた家紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • つるの丸 • 五三きり • 十六きり • 大一大万大吉
<p>(^{しやうぶ}尚武的意ぎ) 尚武紋</p>	<p>戦勝をいのる家紋。 武具や「勝ち虫」と よばれたとんぼなどが モチーフ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ならび矢 • ちがいたかの羽 • まむさかぶと • 丸にむかいからぶと
<p>(^{しんじやう}信じやう的意ぎ) 信じやう紋</p>	<p>宗教にかかわる ものをモチーフにした 家紋。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 十字くろす • ぎおんまもり • 一本すぎ • へいし(おさけを 入れるようき)
<p>(^{しゆじ}指示的意ぎ) 名字紋</p>	<p>名字にちなんだ家紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 丸に上の字 (上) • 丸に大の字 (大) • いげた ✕ • とりい 卍
<p>(^{きねん}記ねん的意ぎ) 記ねん紋</p>	<p>一族やせんぞの 名を記ねんした 家紋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • うめの花 • さたけおづぎ • かじの葉 • ふいせんちやう

調べよう わたしがえらんだ武しょうの定紋

①好きな武しょう

もりながよし
森 長可

(1558~1584)

「小枚、長久手の戦いで戦死した」

「おに武さし」



森つるの丸

- ・動物紋
- ・信こ紋

つるは、長じゅ、はんえいのシンボル。
えんぎの良さにくわえてゆうがで美しい
すがたも人気の理由
森氏は一向宗を信じていたと
伝わっている。つるは、一向宗とふかいがか
わりがある紋のつななので、しんこう紋がも
しれない。

まなだ まさゆき
真田 昌幸

(1547~1611)

「六連せんは三すの川の
わたしちん」



六連せん

- ・器材紋
- ・すいしょう紋

六連せんは、死んだ後に
ひつようになるという六道せんを
意味している。いわは三すの川の
わたしちんであり、ひつきぎに入れ
られる。

「死のかくごはできている」
という意味と、てきにむけた死への
パスポートという意味がこめられ
ている。

②少しきれいな武しょう

あけち みつひで
明智 光秀

(1528?~1582)



水色ききょう
・植物紋

『本のうきにひるがえした水色ききょう』

ききょうはいっはんに、^{せいわげんじ}晴和源氏・とき氏の代表紋とされる。

明智光秀の紋である水色ききょうは水色でえがかれる。決められた色でそめることが定められたユニークな紋である。

光秀はその水色ききょうのはたを立てて信長を本のうきでおそて自がはせ、10日ほど天下をとった。

だが、光秀は「うらぎり者」と見なされ、ききょう文にも「うらぎり者の家紋」のイメージがついてしまった。そのため、ききょう紋だった武士の中にはべつの紋にかえた者もいた。

いしだ かつなり
石田 三成
(1560~1600)

三成の理想が家紋に結晶



だいいちだばんだいきち
大一大万大吉

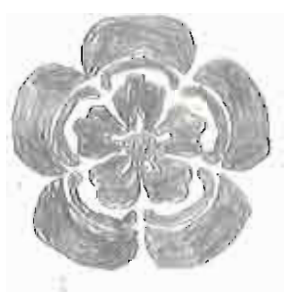
- ・ 文字紋
- ・ ずいしょう紋

大一大万大吉は、「カツ」は「カツ=勝つ」、万は「よろず=全て」、吉はそのままめでたさを表す「吉」。それら全てに「大をつけてえんぎ」の良さをよりくくらしませためてたい紋である。

三成は戦場で「戦うよりも政治を行なう方がとくいなタイプ」で、大一大万大吉は、三成の政治にたいする次のような理想がこめられているといわれている。「一人が万民のため、万民が一人のためにつくせば天下は大吉、すなわち大平となる。」

③ きらいな武しょう
おだ のぶなが
織田 信長
(1534~1582)

天下布武は木瓜紋とともに



織田瓜
おだのぼなごう
(織田木瓜)
・ 文様紋

織田信長は多くの家紋を持っていたが定紋として知られるのが織田瓜とよばれる木瓜紋である。木瓜とは地上にある鳥のよぎ長した文様のことで、子孫はんいの意味を持つ。

いつもの木瓜紋は、四弁で横に長いですが、織田瓜は、五弁なのが特ちょう。そして織田瓜はいつもの「五つ木瓜」紋とくらべると花のように見えるデザインも特ちょう。

とよとみ ひでよし
豊臣 秀吉
(1537~1598)

太閤秀吉は桐紋がお気に入り



たいこうきり
太閤桐
・ 植物紋

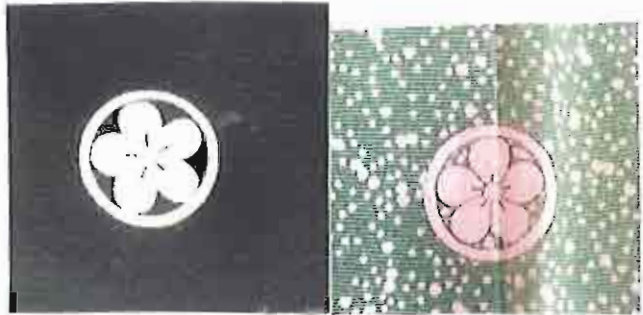
桐は日本では高貴さのシンボルで、天皇家から名紋として与えられることが多い秀吉は桐紋を2どもらっている。さいしよは、主君織田信長から「五三桐」を与えられた。次は、天下人となった時、後陽成天皇からも、菊紋とともに「五七桐」を与えられている。

太閤桐は決まった形はなく秀吉のアレンジがくわわった桐紋をそうよび。

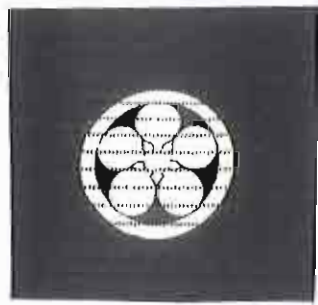
調べよう 着物でたどる家紋

- ①わたしの母の実家、
 - ②母方のそ母の実家、
 - ③母方のそうそ母の実家、
- に伝わる家紋を紋付の着物でかくにした。

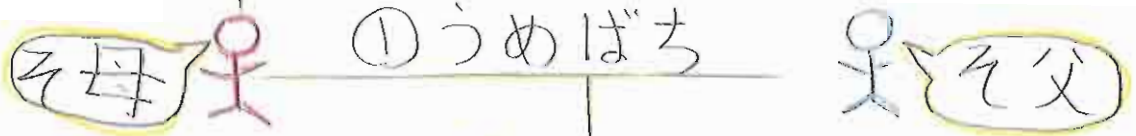
武田信玄と
同じ家紋



②武田びし



③うめ



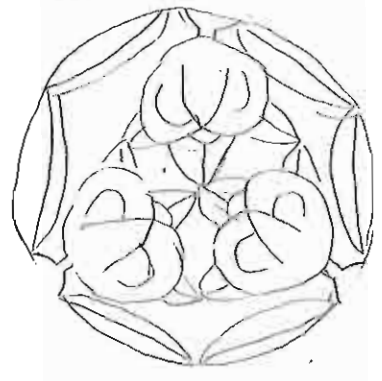
①うめばち

うめばち



調べよう はか石の家紋

三つ橘 (母の実家がたゞ家になっているお寺の寺紋)

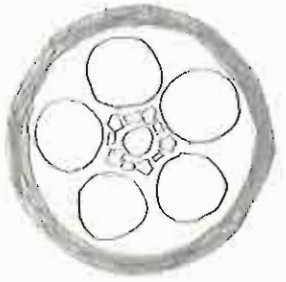


(植物紋)

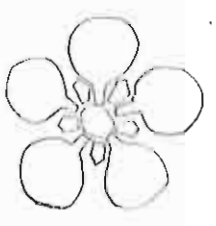
橘は良い香と雪に強い生命力にあゆむためか家紋に使うれいが多い、十大紋のひとつに数えられる。

丸に梅ばち (実家のはか石の家紋)

加賀梅ばち



(植物紋)



(植物紋)

梅は松、竹とならんでめでたいろしとして古くから日本人に愛された。菅原道真をまつる天まん宮につきものの花であることから、学問がさかえるという意味ももつ。花びらを円形にデザインしたものは梅ばち紋といい、梅紋よりしゅるいが多い。

下がり藤の丸

上がり藤の丸



実家のほちには
同じ遠藤の
名字でも
「下がり藤」の
遠藤と



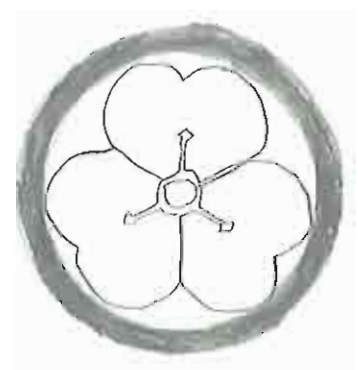
「上がり藤」
の遠藤が
あった。

(植物紋)

(植物紋)

古くからかんしょう用の植物として親見生まれ
文様のしゅるいも豊田。はんしゅくかにくわえ、
はんえいした藤原氏にあやかるれいも目立つ。
藤原が「藤」の一字を含んでゐるためか藤紋が
藤原氏の代表紋だと思われがちだが実は
藤原氏直系の子孫は、ぼたんの家紋を
用いている。藤紋を使用する代表的な家は藤原氏
系の武士の一族である。朝でいて、出世する
見こみのなくなつた藤原氏の中には、都を
出て全国へちらばつた。その藤原系の武士が、
藤原氏の血すじをほこりとして「藤」の字をとつて、
佐藤、遠藤などの名字を名のり、家紋にも藤を
用いたのである。

丸にかたばみ



(植物紋)

ハートがたの葉を持つ。はんしょく力の強さから家紋に用いられたといわれる。使用れいがとても多く、徳川時代に急ぞうした。

丸に三つ柏がしわ



(植物紋)

古代から食物をもちる器として使われ、たんごのせ、句で食べる柏もち、神社でおまいりする時の「柏手」などのれいを見ても分かるように、信こうにかかわりが深い。

丸にちがいた羽はの羽



(動物紋)

たかは、動きがすばやく、いさましいゆ生しつから武家に好まれた家紋。羽根だけのデザインが多いのは動物紋の中ではめずらしい。

丸にだきみょうが

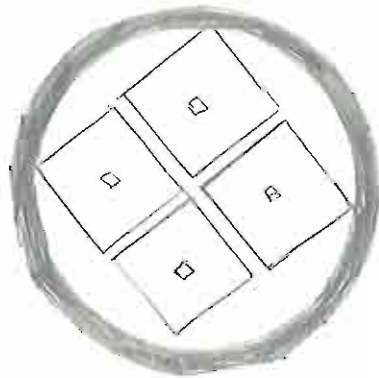


(植物紋)

みょうが
「吳杓(知らないうちにうける神仏の目かけ)」に通じるとされ、とても人気が高かったことから十大家紋に数えられる。

丸に^が角立て
四つ目

丸にすみ立て
一つ目

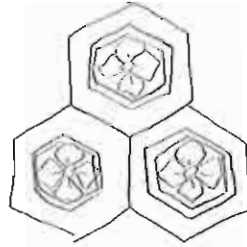


(文様紋)

めりい
「目結」ともいう。もともとはしぼりぞめの
かのこしぼりのこと。平安時代に文様として
用いられたあとかまくら時代に家紋として大流行
した。このお寺の地には、同じ「丸に角立て四つ目」でも
名字がちがうおはかが多くあった。

もりまこはなが
三つ盛亀甲に花角

もりまこはな(25)
三つ盛亀甲に花びし



(文様紋)

六角形のデザインは亀の甲らににている
ことから、この名がついた。もともと
亀にはめでたい意味合いが含まれて
いるため、このデザイン自体がめでたい
ものと考えられている。これひとつ
だけで使われることはあまりなく、ほと
んどは他の家紋と組み合わせ用いら
れる。また、花角も花びしも決まった
植物を意味するものではなく、花びらを
四角形やひし形にあしらったデザイン。
花びらが4弁のものは花角、花びし、
5弁のものは唐花^{かな}という。花角、花びし、
唐花は人気が高く、衣服の文様としても
広く使われた。

(「イ子から知りたい!家紋と名字」より)

(3) 日本の家紋とヨーロッパの紋章

◦ 紋章のはじまり

日本に家紋があるように、ヨーロッパには紋章(エンブレム)があった。むかしヨーロッパでは、騎士が馬で戦う戦そうの方法だったために、騎士がよろいをまわって馬にのりてしまつてきか味方が区べつするのはむずかしかった。

そこで、たてやよろいにマークをつけてだれなのかを区べつすることが紋章の生まれるはじまりとなった。マークが紋章としては、きりとみとめられるよつになつたのは、12世紀ごろといわれている。

(「面白いほどよく分かる家紋のすべてより」)

家紋と紋章のちがい

(「ウキペディア」紋章)面白いほどよくわかる家紋のちがい

家系紋	紋章
だれでも持てる。	貴族や王族だけが持てる。
家を表す。	貴族や王族などの個人を表す
ちがう家でも家紋が同じことは多い。	個人を区別できるように、まったく同じ図案の紋章が2つ以上あつてはならない。
一族のしあわせ、はんえい、けんこうなどの意味がこめられている。 けんかやしはいのしょうぢうではない。	貴族や王族などのけんかやしはいのしょうぢう。
シンプルな図がらで、モノトーンの色づかい。	ししやたかななどの、もうじゅうがふくざつにデザインされ、カラフルに色づけされている。
家紋をかんりする役所はない。	紋章いんという紋章をかんりする役所がある。

(4) 予想とのひかく

28

家紋は身近な自ぜんの中から題ざいをえらんで決めていたのて、わたしの予想と合っていた。家紋は使い道やモチーフや意味に、たくさんあるのし、るいがあつてむかしの人は考えらのが大へんだ。たのかなと、思、た。でも、家紋がすきだつたからこんなたくさん家紋が作り出されたのたろうなとも思、た。また、家紋と紋章には大きなちがいがあつても分かつた。家紋はだれでも持てるけど、紋章は貴族や王族しか持てないし、家紋はかんりする役所は持ないけど、紋章にはかんりする紋章いがある。そして紋章は強そうな動物をモチーフにしているのに家紋は強そうなくまやたかなどをモチーフにしないで葉、ばや花などをモチーフにしてやさしいデザインにしているところが日本人らしいと思、た。

⑤家紋はどんな地位の人が持っていたの？

(1)家紋はふつうの人々(しゅみん)でも持てる。

家紋は家のしゅうちょうである。同じように家を表す物として「名字」がある。

江戸時代になると、武士以外のふつうの人々は、ゆるされた家以外は名字を名づけることができなかつた。(『^お稽古^ぎ』)。

しかし、家紋の使用はふつうの人々にもみとめられた。名字を名づけるにならなかつた。たふつうの人々にとって、家紋は名字のかわりとなつた。武士だけが持てる物になつた。名字とはギャくに、家紋は文字が読めない人が多い江戸時代にふつうの人々の社会に広がっていき、それぞれの家を表すしるしとなつた。

(2) 名字のたんじょう

30

- 「^{うぢ}氏」と「^{かばね}姓」

現在の日本人の名は、家の名である名字と、個人の名である名前をならべて「名字+名前」で表す。

「名字+名前」を「氏名」や「姓名」などといい表わすが、現在わたしたちが使っている氏名や姓名は、4世紀から5世紀のせいどの「氏」や「姓」がもとになっている。

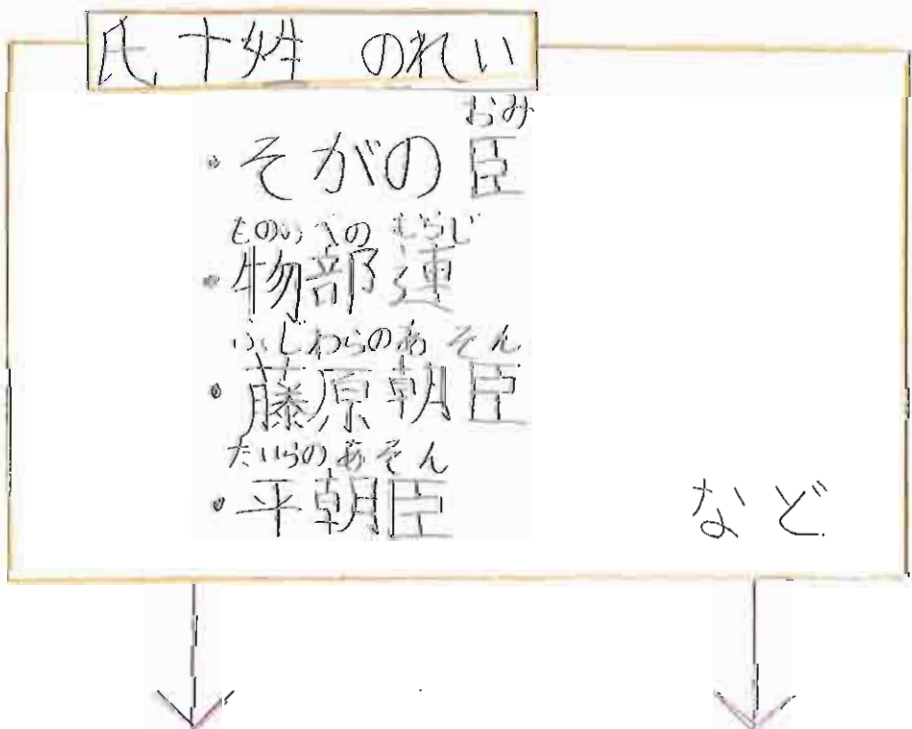
氏とは親族集団や血すじを表す名しょうである。土地名やしよくぎょう名からつけられた。

姓とは、朝ていくむかし、天皇が政治をとったところが、氏族や個人にあたえた、^位位や地位を表すものである。

うじ かばね
 ○ 氏と姓のちがい

氏 血すじを表す	姓 地位を表す
地名に由来 → そが、 かつらぎなど	朝ていが身分の高い者 にあたえた地位を表すの
しよくぎょうに由来 → 物部、 神部など	↓
天皇の命名 → 藤原、 源、平、橘	おとら 連 伴造、国造、 まひと 朝臣、すくね、など

同じ地位の者は全て同じ姓でよばれ
 区べつがつかないため、氏をつけてよばれた。



氏族の数は千以上あったが
 平安時代末(12世紀末)には
 「源^{げん}・平^{へい}・藤^{とう}・橘^{きつ}」
 (源氏、平氏、藤原氏、橘氏)
 の四氏のいずれかを名のる
 者がほとんどというふうたいに
 なってしまった。

奈良時代(710~784)には
 ほとんどの姓が朝臣と
 なってしまい意味がなくなっ
 てしまった。

同じ氏を名のる者がうえ、各地に広がって
 いくと、氏や姓とはべつに個人を区別するひつよう
 ができた。

名字のたん生

平安時代末になると、武士の間で氏や姓
 とはべつに、家を表す名字が用いられる
 ようになった。
 名字の「名」は、武士のりょう地(国や
 大名などが持っている土地)のことで、
 「名」にはその土地の地名がつけられていた。
 自分のりょうちを明らかにするために、
 しはいする土地の地名を名字として名のる
 ようになった。

名字を名のるということとは、りゅう地
を持っているということの意味し、

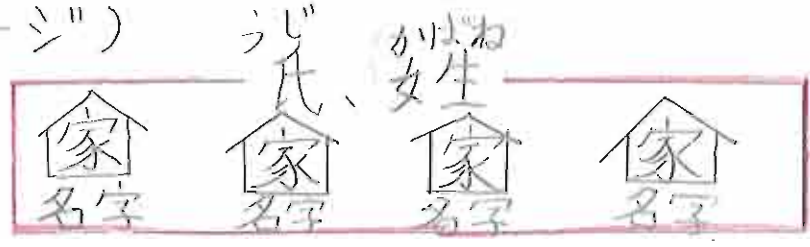
名字を持つ者 = 武士、

名字を持たない者 = 武士の家来、という
しくみになっていった。

その後、名字は全国に広まり、氏や姓
は日常生活では使われなくなっていた。

(3)むかしのフルネームは長い

(イメージ)

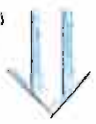


氏、血筋を表す

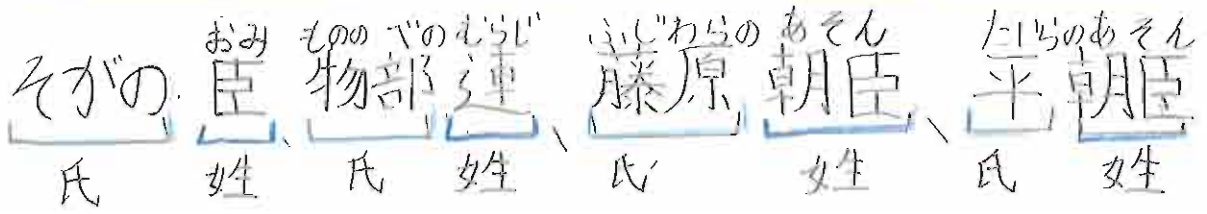
そが、^{もののぶ}物部、^{ふじわらの}藤原、^{あそん}平など

姓、氏 の地位を表す

^{おみ}臣、^{むらじ}連、^{あそん}朝臣など

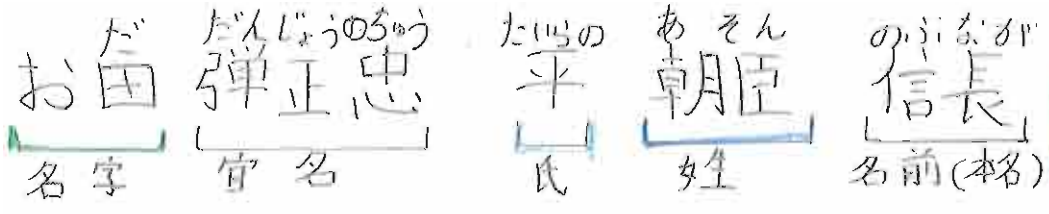


氏 + 姓	朝臣はもとも高い地位を表す 姓として多くの者が名づけた。
-------	---------------------------------



朝臣を名づける物がらえて同じ
姓 + 氏ばかりになった。

名字 + 氏 + 姓	氏 + 姓では区べつがつかず、名字をつけて個人を区べつした。
------------	--------------------------------



お田 弾正忠どの

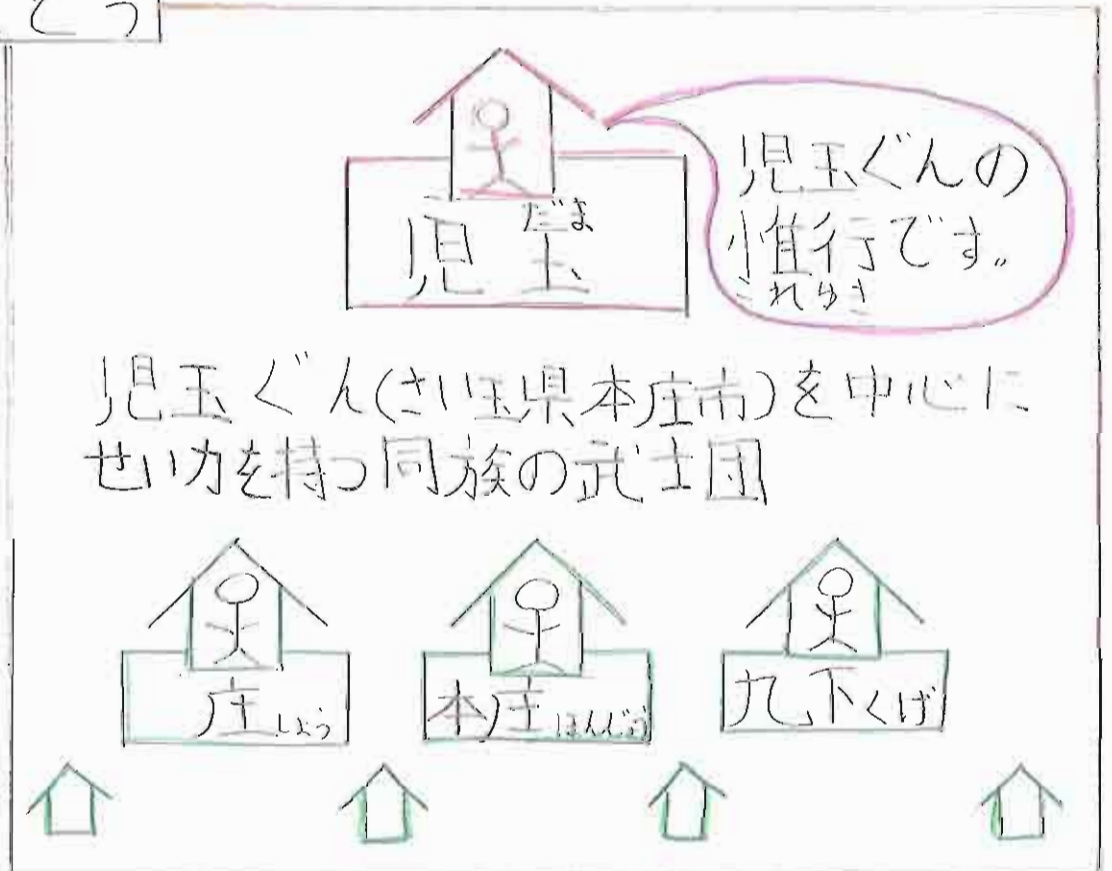
※名前(本名)を声に出してよぶのはしつれたと
 されていたため官位やつうしょうでよぶのがらつう。
 ※実さいにこのフルネームを書いたれいはない。

(4) 日本さいしゅうの名字はむさし^し七とう³⁵

むさし七とうは、京から移じゅうして
関東地方のむさしの国で力をのばした
武士団のことで、横山とう、いのまた、
とう、児玉とう、丹とう、野よとう、村山とう、
西とう、という七つのとうから成って
いた。

とうは、先ぞを同じくする者たちが集り
数十の家でこうせいされていて、家
それぞれが名字を持っていた。最大の
児玉とう・丹とうは、それぞれ80家
ほどもあり、七とうを合計すると300家
にもなったという。

児玉とう



児玉とうの一族は戦場で使うちねを家紋に
用いた。これが最古の武家紋といわれている。

(5) 名字がふつうの人々にも広がる

源頼朝は、家来となつた武士がひと目で
 分かるように家紋をあたえた。同時に
 頼朝は家来となつた武士たちを「ご家人」
 とよんで区別し、ご家人だけ「ご家人」
 を持つことをゆるした。そして「ご家人」
 以外の下き、う武士や農民が名字を使用
 することをもきん止した。つまり名字に
 よつて身分を区別しようとした。が
 しかし、ご家人がふえ、名字が
 全国に広がつていった。名字を持つ
 ご家人が勝手に家来に名字をあたえる
 こともあつた。
 さらに名字は平安時代末より武士たち
 によつて使われていたため、地方の
 武士団は勝手に名字を名づけていた。
 こうして、名字によつて身分を区別
 しようといふ考えはうまくいかず、
 ご家人以外の多くの人々は勝手に名字
 を名づけるようになっていった。
 そして、武士が住んでいた土地をはな
 れても同じ名字を使つづけたため
 名字は土地を表すものではなく、家を
 表す意味にへん化していった。つまり
 「名字ニ地名」ではなくなつていった。
 室町時代、江戸時代にも武士以外の人々が名字を
 持つことをきんされたが、人々は名字を先づからつけた
 大切なものと考え、そりと子孫にうけついでいった。

明治時代になると今どはせいふから
 国民全いんが名字を持つように命じられ
 新しいいこせきせいどがはじま。た。
 この時に「名字+名前」という形が
 公式に決められた。
 多くの人、むかしから使い続けてきん
 名字をとどけ出ることにな。たが、
 中には名字を持たな。か。たため新しく
 つくらねばならな。い場合もあ。た。
 明治時代に名字を新しく作。ん人の
 ほとんどは自分がすむ土地の地名を
 つけたが、中にはめずらしいかわ。た
 名字が生まれるハプニングもあ。た。

○くかわ。た名字>

名字のれい	成り立ち
なむ ぼだい しく 南無 菩提、釈	そうな きゅう 僧侶がお経からつけた。
かぶ だいこん うなぎ 無 大根、魚鱈	そんちょう そんみん 村長が村民につけた。
かどまつ づる たなはた 門松、鶴、七夕	えんぎをかついだ。
おく よろず 億、万	億万長者になることをねが。た。
こめ かし はな 米、草子、花	「〇〇屋」から「屋」をはずしたもの

◦ <長い名字と短い名字>

<p>5文字 (2しゅりい?)</p>	<p>勘解由小路 (かでのこうじ) 左衛門三郎 (さえもんさぶろう)</p>
<p>4文字 (300しゅりい)</p>	<p>内大々保 (うちおおくぼ) 井出え上 (いでのうえ) 御子川内 (みこがわうち) 中ノ野予田 (なかののた)</p>
<p>3文字 (日本人のわり)</p>	<p>佐々木 (ささき) 長谷川 (はせがわ) 久保田 (くぼた)</p>
<p>2文字 (日本人の8わり以上)</p>	<p>佐藤 (1位) 鈴木 (2位) 高橋 (3位)</p>
<p>1文字</p>	<p>森、林、原、東、星など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 十 (じゅうたてよこ、つじ、つなし) <ul style="list-style-type: none"> ↑ ひと、ふた、三のとおになるどら、が つがなくなる。つがなし ⇒ つなし ◦ 才 (えだおろし) <ul style="list-style-type: none"> ↑ 才の形が木からえだをおろしたように見える。 ◦ 丸 (いちじく) <ul style="list-style-type: none"> ↑ 1文字で「丸」いちじでく ⇒ いちじく

(6) 公家の名字は^{きよじうち}居住地

公家の名字は、一じょう、三じょう、う、
 などの京都の地名に由来するものが多い。
 そのほかに、先徳寺、大徳寺、藤原一族は、
 平安時代末、藤原がたどる大きな力をもち
 「藤原氏」だらけになり、つるため、
 そとで、おたがいたくを区べる場所など、
 住んでいくな。た。た。え。ば。藤原がね、
 よう。よう。の。九。じょ。う。に。て。い。た。く。を。も。っ。て。
 は。京。都。の。九。じょ。う。に。て。い。た。く。と。よ。ば。れ。て。
 いたことか「九じょ」とよばれて
 おり、やがて自分を「九じょ」と
 名のよつにな。た。13世紀には正式
 な名字として使用され、父から子へと
 うけつがれるようになり、高い地位を
 表す名字としていちづけられた。

(7) 予想とのひかく

家紋はだれでももつことができた。わたしは、身分の高い人だけが持つことができた。と予想したので、予想とちがう。わたしは、家紋がたくさんふえすぎないように、身分のひくい人は家紋を持っていないようにしたと考えたが、家紋がふえすぎてこまると考えた人はいなかたのかもしれない。その理由は、家紋の数を記ろくする人や役人などがいなかたかつだと思ふ。

家紋がふえすぎてもこまらないから、どんな身分の人でもみんなが家紋を持てたのだと思ふ。だからやっぱり、日本人は家紋がすぎたのかもしれない。

また、わたしはきやくに名字を持つことがきん止された時代があることにおどろいた。

ふつうの人々は名字を持つことをきん止されていたのに、明治時代になつてとつぜんせいふから名字をとろくしろと言われ、持っていない人はどんな名字にするかこま、ただうなと思ふ。

(「イチから知りた!! 家紋と名字」

「よくわかる! 家紋と名字」

「面白いはとよく分かる家紋のすべてより」

⑥家紋は何の役わりがあるの？

(1) 公家にとっての家紋は
おしゃれのしるし



家紋は、平安時代に公家が自分の牛車を見分けるために牛車にしるしをつけたことから生まれた。牛車のしるし(車紋)は平安時代に公家の間に広まり、牛車だけでなく、衣服や家具などの身の回りのものに自分のすきなしるしをつけた。つまり、おしゃれとして自分だけの紋様をアピールしていたのだ。朝で公家たちが衣服に自分だけの紋様をつけるようになる。その紋様が家を表す家紋の意味をもちはじめた。牛車、衣服、家具にすきな紋様をつけることで、区別をつけるためのしるしとしてのやくわりから、家を表すしょうじょうとしての意味を持つことになり、「家の紋=家紋」へとへん化していった。

(2) 武家にとっての家紋は自分を ^{へん化} アピールするし [⇒] 身分をはんだんする目じるし

武家の家紋は公家よりおくれで平安時代に生まれた。武家社会では「家=名字」で、名字にちなんだしるしが家紋と考えられていた。

かまくら時代には家紋は戦場で「てき・味方を区別」するためや、自分の手からを「アピール」するため、まくやはたをはじめ、よろい、刀、武具や馬具などにつけられた。

室町時代は、武家のぎ武がととの。た時代で、武家の正式な衣服にも家紋がつけられるようになった。江戸時代に入ると、ばくふが「武士は公式の場では家紋がついた衣服を着て身分を明らかにすること。」と定めたため、しだいに武家も家紋を大事に考えるようになった。

このようにかまくら時代には、てき・味方を区別するため使われていた家紋が、戦がなくなった江戸時代になると、武士の身分を表すものへとへん化していった。

江戸時代は、身分せいどがは、きりしていたため、家紋を見れば身分の上下関係や、家の格式をはんだんすることができた。

江戸じょうには「下ざ見役」という係
 がいて、さんきん交代のため江戸じょう
 にやってくる大名がいると、持つ物の家紋から、たれであるか
 をかくにし、とろやくを知らせいたという。また、
 大名とうし御道で「出会うと身分のひくい名は行れつを
 止めて、えしやくをする決まりだったため、行れつの
 先頭には家紋にくわしい者がえらばれ、
 せきにんの重い役目をはたしていたという。

(3) 徳川家の独占となった「みつ葵」
 徳川家康は江戸ばくらのしゅう軍に
 なると、みつ葵をしゅう軍家の家紋とし
 した。そしてみつ葵の使用をせいげんし
 徳川家、松平家以外の者が勝手に使う
 ことをきん止することでもみつ葵の
 けんい(他の者をしたがわせる力)を
 高めたのである。
 徳川家のみつ葵はどんどんデザインが
 かわっていった。
 また、しゅう軍家以外の徳川家一族は
 徳川葵と図がらをかえなくてはならない
 という決まりがあったため、葵紋を
 アレンジした家紋を用いた。

(4) 天皇家が菊紋を使う理由

天皇家は日月紋、菊紋、(十六弁八重表菊紋)、桐紋(五七桐)の三つの家紋を持っている。

現在の天皇家で菊紋が用いられているのは、かまくら時代のはじめ、後鳥羽上皇(1180~1239)が菊の紋を特に好んで用いたのがきっかけである。

菊は平安時代から貴族の間で好まれた花で、貴族の衣服や家具の文様にも多く使われてきた。

中でも後鳥羽上皇は菊をあいしたことで知られ自分の持ち物に菊の文様をつけた。上皇が菊の紋を使うようになると、ほかの公家は自分の家紋に菊を使うことをえんじするようになった。その後、菊紋は天皇家にうつがれ、後宇多天皇(1267~1324)のときに、天皇家のせん用紋となった。

「十六弁八重表菊紋」は、明治せいがか菊紋のけんいを高めようと天皇家以外の使用をさんじした。しかし現でほとくにきんじされていない。

もともと天皇家の家紋は「日月紋」で、現在も天皇家で使われている。後鳥羽上皇が菊紋をあい用いたことで菊紋が天皇家の紋となった。同じように「五七桐」も、後鳥羽上皇が使用したことで天皇家の紋となった。

(5) しょ民(ぶつうの人々)にとっての家紋

江戸時代、名字を名のることをきん止されたしょ民にとって、家紋は名字のかわりになった。家紋の使用には、^{お掛}家の紋きん止などのせいげんはあるが基本的には家紋は自由に使うことができた。

平和な時代が続くと、町人の間で、家紋の持つ意味がへん化していった。家紋が名字のかわりというよりは、家紋が着物のおしゃれなデザインとして使われるようになった。家紋入りの着物を着て町を歩くことは、町人にとってはずごくおしゃれなことだった。この家紋の流行に火をつけたのが歌ぶきである。歌ぶきは江戸時代のしょ民の一番の楽しみだった。人気歌ぶき役者の、初代市川團十郎がぶ台で用いた「三ます紋^回」が町人の間で大流行した。たくさんの方が三ます紋の入った着物や持ち物を身につけてファッションを楽しんだ。このように町人たちは、はじめは家紋をまねして使っていたが、だいに自分の家の家紋を作り出し、家紋は町人たちの間にしっかりと根づいていった。

- ・ **十大紋** (日本家紋けんきう所のちょうさより)
 ① かねはみ ② ちっこう ③ たかの清 ④ ^お稻 ⑤ ^は藤
 ⑥ ^お桐 ⑦ つた ⑧ 梅 ⑨ ^は橘 (はちはな) ⑩ 目結 (のり)

(6) 家紋の今

46

現在の日本では家紋を使うことは、ほとんどなくなってしまうと思われる。生活の中で家紋がなくてこまることもない。しかし、家紋が現在の日本からなくなってしまうというわけではない。さがしてみると、あちこちで家紋やマークを見つけることができる。

- ・ パスポート、国会ぎいのバッジくん章… 菊紋
- ・ そり大臣、法む省、500円玉… 桐紋
- ・ 神社の神紋
- ・ 寺いんの寺紋
- ・ 県章、市章、校章… (れい)長崎小学校
- ・ 社章、ブランドマーク… (れい)スリーダイヤ



三びしグループ  ⇒ 
三がいびし 三つ柏

三びしえんぴつ  ⇒ 
三つうご えんぴつ

- ・ 歌いさ役者の紋
- ・ 紋付 (家紋付きの着物やおり)
 - ・ けっこん式やそう式で着る。
- ・ 江戸時代に武家がき式で着た服そうが元になっている。
- ・ はか石の家紋。

(7) 予想とのひかく

49

わたしは、家紋のやくわりはそれぞれ
の人がひと目で分かるようにすること
だと予想したが、半分くらいあっていた。
家紋のやくわりは、公家、武家、しよ民
によつてちがっていて、時代がすすむに
つれて、やくわりがかわっていった。
江戸時代の町民にとって、家紋はおしゃれ
やファッションになっていたが、その
気持ちはわたしにも分かる。家紋の
デザインはシンプルでとてもかっこよい
ので、わたしも自分の持ち物に家紋を
入れたくなつた。

(「イナから知りたい!家紋と名字」

「よく分かる!名字と家紋と名字」

「面白いほどよく分かる家紋のすべて」より)

⑦むかしも今も家紋を決める時、だれかのきょ可がひつようなの？

(1)家紋を決める時には、きょ可はひつようない。

むかしは、江戸時代の「葵」や明治時代の「菊」にきせいがあつたぐらいで、き本てきには自由に使うことができた。町人たちも武家の家紋をまねて作つたり自分で家紋を作つたりしていた。

家紋が大流行した江戸時代には、今のデザイナーのようないし事をしていた人たちがたくさんいた。

現在では、自分の家紋が分からないという人が、けっこん式やおそう式で家紋がひつようになると家紋を作るこがある。

その場合は、「^{うわえし}上絵師」とよばれる家紋をせんもんにえがくしょく人にたのんで新しい家紋を作ってもらふこもある。

「上絵師」は現在では20名〜30名ほどしかいないそうた。

こいづみ や し も
(2) 小泉ハ雲 (ラフカティオ・ハーン) の家紋

49

ラフカティオ・ハーンは、1850年に
ギリシアで生まれ、19才でアメリカに
わたって新聞記者となった。
ハーンは、1890年に新聞記者として
日本にやってくる。日本が気に入った。
日本人女性の小泉セツとけっこんした。
1896年には日本国民となり「小泉ハ雲」
と名のった。

ハーンは日本の伝統文化や日本人の
せいしんにかん心を持つようになり、
本を書いて、世界に日本をしょうかい
した。また、日本の家紋にもきょうみ
を持ち、日本にやっ来てその年に
自分の家紋を作った。

ハーンの家紋は、「さぎ」という
鳥が羽を下げた形をしている。この
「さぎ」は、ハーンのおせんの
サー・ヒュー・ド・ヘロンのはたの
しるしで、「さぎ=ヘロン」を意味
することから、「さぎ」をモチーフに
デザインしたといわれている。
ハーンは、1904年になくなった。

(3) 予想とのひかく

わたしは家紋を決める時は、きよ可は
 ひっようないと予想して、あっていた。
 「家紋デザイナー」のような人は
 「^{うわ}上絵師」とよばれていて、今もじっさい
 にいると知ってうれしかった。もし近く
 にいらっしゃるなら、デザインする
 ところをこの目で見てみたい。
 そしてもしわたしが自分の家紋を作る
 としたら、モチーフはしょうぎのこま
 (香車)がいい。理由は、香車のこま
 みたいに人生、とんどん前にすすんで
 いけたらいいなと思うから。

(「イチから知りたい!家紋と名字」
 「よく分かる!名字と家紋」より)

行ってきましだ!

最上よし光歴史館
(1546~1614)

徳川家康(1542~1616)と同じ時代に山形で57万石の大大名として力を持っていた人物が最上よし光である。「光」ではなく「光」と読むところがめずらしくおもしろい。今年の夏休みに山形市にある母の実家に遊びに行った時に、最上よし光歴史館をおとずれて、家紋や、最上家の歴史について調べた。



こま馬飼姫の人形

よし光の人形



けん「三十八間そふくつんましかぶと」のつけい

最上よし光歴史館
リポーター
松本 芳雄さん

よし光の伝説のきぼうのアプリカ長さ86.5cm、重さ1.7kg、刃2本分の重さ

㊦ 最上よし光のプロフィール

○ 出身地

山形(山形城で生まれる)

○ 誕生日

天文15年(1546)1月(丙午の年)

○ 血液型

!?(おいの伊達政宗はB型です)

○ 職

山形城主。家来は2000人くらい

○ 官位

従四位上・左近衛権少将

○ 家紋

「丸に引き両」、「竹に雀」など

○ 趣味

武道、書道、読書など

○ 好きな食物

塩引き(塩鮭)

○ 得意教科

国語(連歌という歌遊びが得意でした。)

○ 妻

正室/大崎夫人、側室/天童夫人、晴水夫人ほか

○ お父さん

最上よし守(最上家10代目)

○ お母さん

!?(は、きりしません)

○ 兄弟

弟/よし保・光直

妹/よし姫(伊達政宗のお母さん)

○ 子どもたち

(男)よし康、家親、光氏、光茂、光広、光隆

(女)松尾姫、馬飼姫、竹姫、喜久姫

○ 先祖

斯波兼頼(最上家初代)

○ もと先祖

清和天皇(清和源氏)

○ 死んだ年

けい長19年(1614)1月8日(69才)

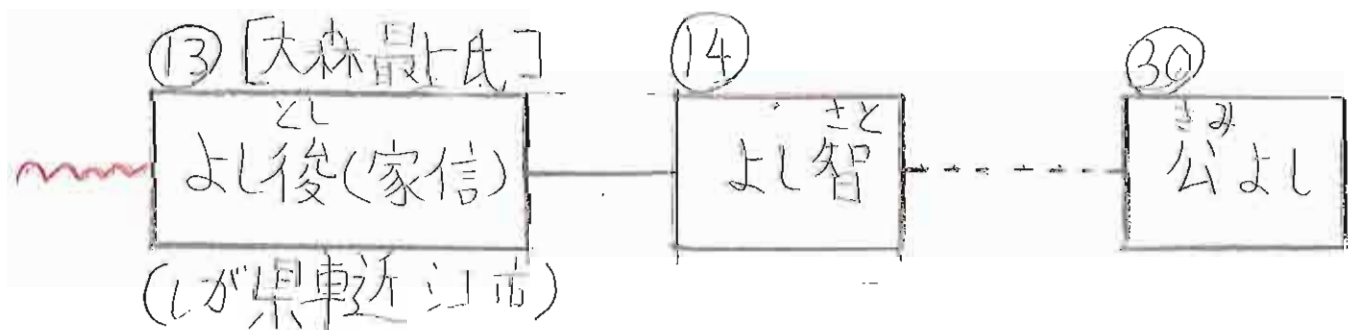
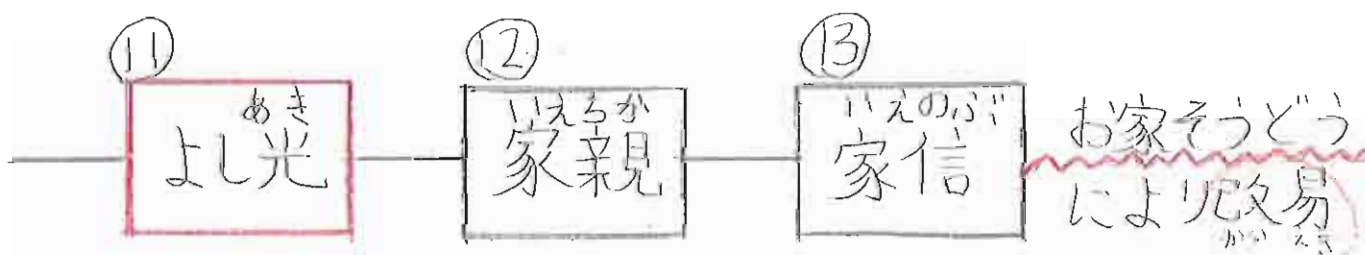
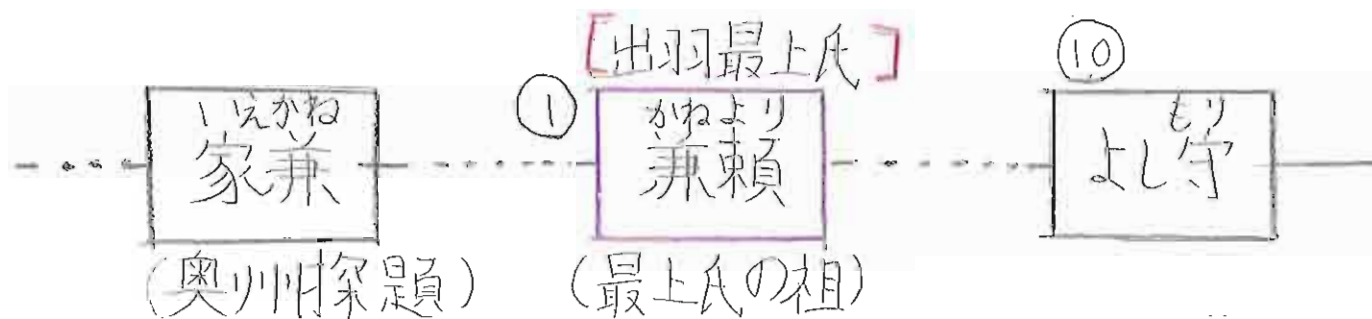
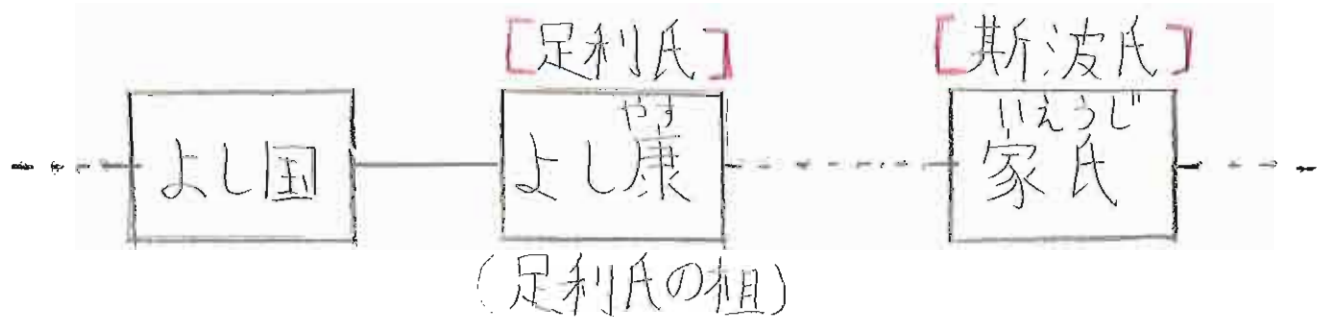
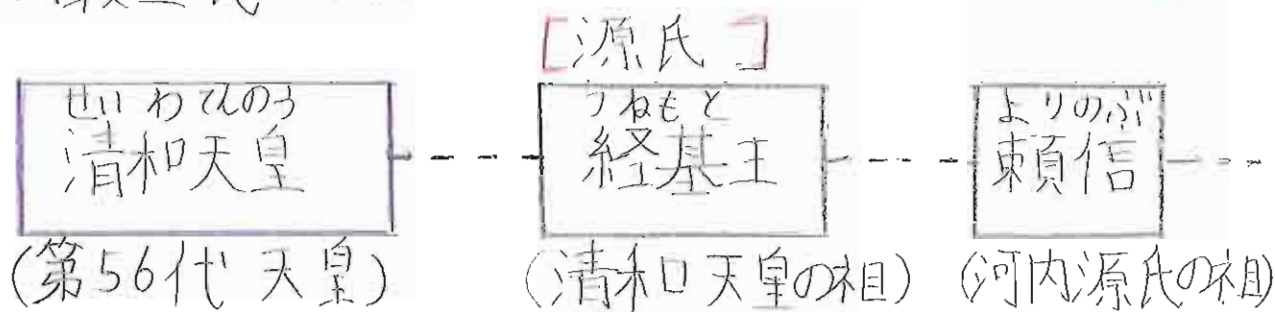
(「見学のしおり」より)

④ 最上よし光が行なったこと

- 約400年前に山形の町づくりをした。
 - ・ 山形城をつくる
 - ・ 城下町をつくる。
 - ・ 1月10日の初市を初める。
- 庄内地方で「お米」がたくさんとれるようにした。
- 最上川を安全に舟が通れるようにした。
- 税金を安くして農民や商人、職人たちを大切にした。
- お寺や神社を大切にした。
- 京都や大坂(大阪)などの都会の流行を山形にもたらした。
- 紅花のさいばいを盛んにした。

(「見学のしおり」より)

出羽最上氏系図



(「見学のしおり」, 「仔から知れた」家紋と名字より)

① 最上よし光の家紋

① 丸に二引両



最上氏の先ぞ^{しば}は斯波氏。
そのため斯波氏と同じ
丸に二引両を用いた。
ただし、最上氏の二引両
は外がわの円と内がわの
二引がつながり、た形。

- ② 五七桐^{ごしちきり}(江戸時代の記号) } 斯波一族の
- ③ 五三桐^{ごさんきり}(室町時代の記号) } 使用紋

④ 竹に雀^{たけにすずめ}
よし光の妹、よし姫が伊達輝宗^{てらむね}におよめ
にいったさいにもらった紋という。
つまり、この紋とひきかえに誕生した
のが伊達政宗である。

- ⑤ 十六葉八重菊^{じゅうろくようやえきく}
- ⑥ 秀吉からもらったのか?

(「戦国武将100家紋はた馬じるし
ファイル」より)
(「見学のしおり」より)



赤いぬのを
せおっている
のがよし光

最上と上杉の大戦争!!
「長谷堂合戦図屏風」

関ヶ原合戦の地方戦として
最上軍(東軍)と直江兼続の
軍(西軍)が山形市西部の
長谷堂で戦った。武士が
家紋をえがいたはたをかつ
いて戦がっているのが分かる



400年前の旗!! 「伝直江軍部隊旗」

直江兼続と戦った時に
よし光が勝ったしよこと
して持ち帰ったはた。雁という
鳥がえがかれている。

(「見学のしおり」より)



わがみ けい いちばん 大から
最上家一番の宝モノ!!
さんじゅうはちじゅうさん ぶくろいん じゆんじゆん
「三十八間総覆輪筋兜」

織田信長からもらった
かぶと。重さは3.1キロ!!
かぶとのくわがたのまん中に
最上家の家紋「竹に雀が
ほってある。



よし光は筆まめで、字の
上手な武将だった。よし光
の手紙には花おう(サイン)の
ほかにハンコがおかれている
ものもある。このハンコには
「七」や「心」「最上」
山形「出羽」
などの文字や
記号がな
っている。



ふしぎな
よしあき
義光のハンコ?
わがみよしあきしんじゆん
「最上義光書状」



最上義光歴史館

(見学のしおりより)

よし光の孫・家信が、父・家親が病死したために13才で後をついだ。しかし、家臣たちが13才の家信は後つきにはふさわしくないと言われ、お家そうとうに発してしまい、ついに改易(リョウ地・やしきをとリ上げられる)された。

出羽57万石を改易されたあとは近江大森1万石にへらされてしまい、よし智の時代にさらに5000石にへらされた。

家信がよし俊と名前をかえて大森へ改易された後、出羽山形には江戸から大名がかわるがわるおくられ、12家のリョウ主がひんぱんに入れかわった。

そのため、出羽山形最上家のしりょうや宝物はあまりのこされておらず、くわしいことが分からなかつたが、30代目の(大森)最上よし^{まか}さんが、しりょうや宝物を最上よし光歴史館にさそ^{まか}うしてくださったことがきっかけでよし光についてのくわしいことが明らかになってきた。

もし、家信の時代にお家そうとうがなくて、しが^{まか}の近江に改易されることにならたら最上一族についてのしりょうや宝物がもとのこされていたかもしれないと思うと、とてもざんねん^{まか}に思った。

(「ウィキペディア」より)
(「見学のしおり」より)
(松本さんの説名より)

今回の調べ学習では、まず、家紋について書いている本がほとんど大人向けの本ばかりで、子ども用の本がなく、読むのにとても苦労しました。それに、家紋を書きうつすのも、予想い上に大へんでした。でも、わたしは歴史や戦国武将が好きなので、家紋は歴史につきものだと思っ。てがんばりました。でも、調べ学習をすすめていくうちに、家紋のデザインには色々な意味がこめられていることがわかって、昔の人はとても頭が良いなと思っ。て、ろくむずかしい家紋の歴史もおもしろく感じるようになりました。また、家紋は同じく家を表す名字とふかくなが。っているところを知って、お墓に行くとき、かならず、名字と家紋をチェックするようになりました。しかし日本のだん。の生活で使われなくす。家紋が、ふだんのはとてもざんねんで。茶をわたりは自分の茶道具で家でま。茶を点てることもあり、日本文化にき。う味があるの。で、いっ。か、自分の紋付の着物を着て日本の伝統文化に親しみながら家紋を伝えてい。きた。い。です。

㊦さん考図書

60

本の題名	かりた図書館
仔から知りたい!家紋と名字	目白図書館
面白いほどよく分かる家紋のすべて	目白
よくわかる!名字と家紋	目白
日本の家紋大事えん	目白
本当によく分かる!日本の家紋事 ^{由来と} ひ ^{かい} せつ	目白
イラスト図かい・家紋	目白
戦国武将100家紋・はた・馬じるしファイル	自宅

㊦さん考しせつ

最上よし光歴史館

㊦さん考ホームページ
ウィキペディア(紋章、最上よし^{とし}俊)

㊦写真の出てん

母さつえい